

茨城地区の原子力・放射線部門の技術士新年会（報告）

主催：日本技術士会 原子力・放射線部会

日時：2008 年 1 月 12 日（土） 15:15～18:00（予定より 15 分延長）

場所：JAEA テクノ交流館リコッティ 3 階 第 1, 2 会議室

※茨城県那珂郡東海村舟石川駅東 3-1-1

参加者：15 名（JAEA：7 名、日立：5 名、NECO：1 名、RADA：1 名、KEK：1 名）

内容：

司会進行（佐川幹事）

1. 開会の挨拶（林部会長）

原子力・放射線部会員は、大まかには北関東、東京で、それぞれ 3 分の 1、その他の地域が残りという配分となっており、北関東にかなりの人数がいるにも関わらず行事が少ないことを申し訳なく思っている。この機会に日ごろ考えていることを部会活動やボランティア活動に反映できればと思っている。また、このような機会に横の輪を広げてもらいたい。

2. 乾杯の挨拶（JAEA 技術士会：関会長）

今回のような機会は、情報交換や活動を盛んにするための良い機会である。今後、JAEA 技術士会をどのようにしていくか皆様の意見を聞き、参考にしたい。

3. 挨拶（日立 GE 技術士会代表：辻氏）

日立でも技術士資格の活動を推奨している。

北関東は、原子力発祥の地であり、盛り上げていかなければならないと思っている。技術士は事業所を越えて活動することが使命であると思っている。このような会合を通して、交流とレベルアップを図りたいと思う。

4. 部会の活動報告（林部会長）

技術士法制定 50 周年記念シンポジウムの説明資料により、部会活動の 4 つの柱である「制度活用提言」、「技術士数確保」、「継続研鑽」、「広報活動」のそれぞれの活動状況等について紹介があった。

5. 参加者からの自己紹介等

参加者から自己紹介と意見要望等の発言があり、各々、質疑応答が行われた。主な意見等は次のとおり。

- ・ JABEE 認定者が増えてくると 1 次試験の受験者数は増えなくなる。JABEE 認定者は、卒業してしまうと技術士となるようガイドするのが難しい。  
→ 理事会でも本件の対応を議論している。
- ・ 県の進めている事業においても、その放射線利用等の際には、技術士が仲介役等になるなども技術士の活用につながることにならないだろうか。
- ・ 技術士の資格が業務独占資格のようにならないと、JAEA で実施している技術士講座の受講者

も増えない。

- ・エンジニアリング会社では、技術者集団を目指し、積極的に技術士資格取得を支援している。
- ・独立技術士として看板を出しても仕事は来ない。自分から積極的に売り込む必要がある。
- ・保健物理学会にも技術士のページがあるが内容が十分でない状況である。
  - 部会として全面的にバックアップし、今後は連携を図って行きたい。また、部会のホームページからリンクすることとした。
- ・昨年から法制研究会で許認可のあり方等が議論されている。米国のように、詳細設計以降の工事認可等は、民間 PE がやるようにすべきとの意見が強い。
- ・国レベルでは、大学の先生方と技術士がどう協力・支援していくかが制度活用の1つの方法となる。
- ・会社として管理技術者が必要であるが、技術士資格を有しているとこの役割を担うことができる。

まとめ： 約3時間という長時間であったが、活発な意見交換が繰り広げられ、時間をオーバーしても盛り上がりは収まらなかった。最後に、林部会長より今後少なくとも年に1回は茨城県地区の技術士会合を持ちたいとの提案があった。栗原部会幹事からの閉会の挨拶の後、集合写真の記念撮影をしてお開きとなった。

以 上

